

平成二十六年 岩手県ことばを育む親の会リーダー研修会

県親の会リーダー研修会が九月六日(土)〜七日(日)、清温荘を会場に行われました。今年度は、県内二十五支部から、のべ五十六人の参加がありました。

一日目は、県親の会岡崎清弘・林義明両副会長からこれまでも親の会活動と今後の展望等について基調提案の後、三グループに分かれて分科会を行いました。

昨年度までは、担当者と保護者が別々に分科会を行っていましたが、今年度は、一緒に県親の会総会時に提示した課題について各支部で協議した結果を共有しました。

二日目は、森田事務局次長から分科会のまとめとして、リーダー研修会と名称を変更した経緯、リーダー研修会の主旨の説明の後、各支部への課題が提示されました。

その後、岩手県ことばを語る会事務局長 津川哲一氏から「親の会結成五十周年の活動の歩みからこれからの第一歩へ」と題し、講話をいただきました。子どもたちの学びの場の拡充に向けた親の会の活動や今後の歩みをどう展開するか等について詳しくお話をいただきました。

二日間のリーダー研修会では、各支部の様子を知り、来年の五十周年に向けて心を新たにしたいと思えます。それぞれの支部に持ち帰り、今後の活動に活かしてほしいと思います。



《分科会のまとめ》

各支部への検討課題六点について、各支部の協議結果を共有しました。今後の支部親の会の活動にお役立てください。

(一) 県親の会結成五十周年にかかわる活動

本県親の会の五十周年の歩みに学び、その後に次のステップへ歩み出すことが大切です。そのために、各支部では、学習会を開催し、少なくとも、各教室の誕生の経緯を知ることが大切です。

(二) 親の会組織：連合体か、支部親の会か。

《連合体の場合》 ↓ *支部親の会が主体的に活動します。
親の会が、市町村や地域の課題を把握し、実態に合わせた活動を展開していきます。

・独自の計画のみを実施することが可能です。
・主体的な活動が必要です。

《支部組織の場合》 ↓ *県親の会の事業計画に沿った活動をします。
・県親の会からの指導に沿った活動や、市町村や地域の実態に合わせた活動を行います。

【結論】 *本県の親の会は、今後も「支部組織」でいきます。

(三) LD等通級指導教室に通級児童生徒の保護者の入会
入会していただく方向で、入会を勧めたい。ただし、実態に合わせて入会を勧めないこととし、行事の見直しを行います。

(四) 通級にかかわる補助費(就学奨励費)

「通級児童とその保護者の負担軽減のための活動の展開」ということが、この項の主題です。
・その方法としては、就学奨励費の支給、巡回指導、公用車やタクシーによる通級などがあります。

・実施されていない支部の場合は、実施されるようにお願いするという活動が大切です。

・実施されている支部の場合は、実施が継続されるようにお願いするという活動が大切です。

(五) 各支部親の会の課題と取り組み

各支部は、支部の課題を把握し、それを解決するための取り組みを行います。その活動の成果をおさえること、また、その活動の結果生まれた新たな課題を把握することが大切です。

・リーダー研修会の分科会で協議された各支部の課題や、その活動から学ぶということが大切です。課題を解決するための活動で、参考となるようなことは取り入れましょう。

(六) 各支部への課題の協議

今回、県親の会から各支部へ協議課題を出しましたが、支部役員会で協議することによって、課題を共有することができました。

